

施策番号	1201		
施策名	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信		
概要	景観、観光、文化、環境等、京都がもつ魅力を向上させ、世界各国に効果的な情報発信を行うとともに、海外からの訪問者が快適に行動できるよう受入環境の充実を図り、世界中のひとびとを引き寄せるまちとする。		
担当局・部室	総合企画局・国際化推進室	共管局・部室	産業観光局・観光M I C E推進室
上位政策	12 国際化		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市国際化推進プラン，京都観光振興計画2020，京都市M I C E戦略2020		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		28年度	29年度	30年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	コンベンション参加者数(人)	a	a	202,996	139,102	202,996	68.5%	d	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				d	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		28年度	29年度	30年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	a	a	96 21.6%	224 50.5%	92 20.7%	19 4.3%	13 2.9%	444
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	a	b	79 17.6%	212 47.3%	132 29.5%	16 3.6%	9 2.0%	448
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		a	a	市民生活実感調査総合評価					a

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						
	重み付け	☐ 客観指標	d	☒ 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 世界への京都の魅力発信に対する評価は、市民の意識が重視されるべきであると考え、また、京都の魅力は多岐にわたるものであり、客観指標総合評価では全ての分野が網羅できないため、市民生活実感調査総合評価を重視する。						29年度	A
(原因分析) 客観指標総合評価 ☐ b 評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☒ c 評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・京都大学をはじめとする大学との連携を実施しており、平成29年は大学における国際会議件数が増加し、京都市域での国際会議開催件数は初めて300件を突破している。一方で、大型の会議施設である国立京都国際会館のニューホールの工事による利用制限により、同会館で開催された国際会議件数が減少した影響から、大型会議の開催件数が減少し、総参加者数が減少している。						28年度	A
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b 評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c 評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		30年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		29年度 決算額	30年度 予算額		
1	京都文化交流発信事業の推進	7,007	9,477	普通	総合企画局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・コンベンション参加者数を更に増加させるため、引き続き、海外からの賓客に対する京都の魅力の発信に取り組むとともに、京都の持つ多様な魅力の一層の向上を図る。そのために、庁内の関係部局が連携を密にし、市民が外国の文化に触れる機会を充実させ、「おもてなしの心」の向上を図るなど、受入環境の充実に努める。

・京都の魅力を発信するDVD（14言語に対応）を提供するなど、海外との交流団体や大学、海外からの賓客等に対し、様々な機会を通して京都の魅力のPRを図る。

施策名	1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信					
指標名	コンベンション参加者数（人）						
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6 - 2 2 5 5			
1 指標の説明							
1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議に参加した人数							
2 指標の意味							
経済，文化，国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標							
3 算出方法・出典等							
出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都開催の国際会議」，日本政府観光局（J N T O）「国際会議統計」							
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	28年度	29年度		数値	根拠	達成度	
数値	202,996	139,102	63,894人減	202,996	過去5年間の最高値	68.5%	
	全国順位	中長期目標			備考	数値の公表時期の関係により，評価は暫定値で行う。前回数値については実数に修正している。	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：上中間値（最高値と平均値の中間値）以上～最高値未満 c：平均値以上～上中間値未満 d：下中間値（平均値と最低値の中間値）以上～平均値未満 e：下中間値未満			6 基準説明				
			各年度の具体的な数値目標の設定が困難であるため，過去5年間の数値の推移で評価する。 最高値 202,996人（平成28年） 平均値 149,508人 最低値 96,020人（平成25年）				
7 評価結果							
28		29		30			
a		a		d			